



中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。☎052(961)2491

「イマダ、ハレツシテイナイ」は、いつか破裂するということ？

100人あたりに3人程度が、未破裂脳動脈瘤を持っていきます。症状はなにもありませんが、破裂するとくも膜下出血となります。くも膜下出血は脳動脈瘤を持っている人に起こり、持っていない人がくも膜下出血になることは、まずありません。例外もありますが、だいたいこんな感じですよ。

破裂したものには小さい動脈瘤もあります。とはいえ、小さい動脈瘤が破裂することはめったになく、破裂しないでじっとしている小型ものがたくさんあります。サイズが7ミミを超えると大きめといえますが、それでも破裂する割合は1年間に1%程度です。より大きいものは、それなりに破裂しやすくなります。積極的に破裂を予防するには手術ということになります。今のところ、脳動脈瘤が大きくなったり、破裂したりするのを予防できる薬はありません。

未破裂脳動脈瘤

りません。

脳神経外科の診療の場では、より安全で有効な手術のための器具や手技の進化がめざましいです。愛知県では40歳以上の人口が450万人で、1年間に1300人がくも膜下出血を発症します。破裂した脳動脈瘤の手術は850件、未破裂脳動脈瘤の予防的手術は千件と、大ざっぱな数字ですが、これくらいの手術が毎年行われています。

脳ドックの立場からは、拡大しそうな、破裂しそうなリスクの高いものを選別が望まれます。悪いことをしそつでなければ許してやる、と言いたいところなのですが、厳密で正確な選別はまだ困難です。現状では、より正確な脳動脈瘤の診断をすること、小型のものであれば慎重な経過観察を行うことが重要と考えています。

(健診センター脳ドック担当医師・大野正弘)

小型なら慎重に経過観察

